

## 反撃攻勢に向けて

□45■

「半導体不足の状態が続いている」

事業の現状は  
「自動車の電動化への移行が  
も作れない状態が続いている。  
当社においても半導体の知見を  
持つエンジニアは少なくな  
少量半導体の開発

製造に向けて  
取り組みを続けてきた。現在  
の半導体不足はエンジニアの採  
用・育成を各社がこの10年間疎  
かにしてきた結果だと推察す  
る。製造業にとって「工数イコ  
ール固定費イコール人件費」と  
なる。人件費として続けて投資  
していくことが重要だった。当  
社も含めて十分だとは言えな  
いでも、こうした開発・投資  
に取り組んできた。今後の競争  
4年間、カーボンフリーへの  
対応も含めて十分だとは言えな  
いでも、こうした開発・投資  
に勝ち残れるかどうか、やつと  
見えてきたところで、社内には  
勝ち残ろうという意志と自信も  
出てきている」

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス



小野 有理  
C社  
CEO  
長

## 少量半導体開発で勝ち残る

「点火コイルを軸とした既存  
からゼロへの取り組みとして  
続けていく。既にこの4年間、  
「フォード・モーターからの受  
注再開に際しウエストバージ  
ニア州の生産拠点の増築が完了  
果として特許取得件数も積み重

ねていて、さまざまな技術と組  
み合わせて、いろいろな進展も見  
込んでいる。この4年間の集大  
成として、春以降に発表できる  
ことも増えてくるだろう」

一米国の点火コイル製造拠点  
の進捗は  
「フォード・モーターからの受  
注再開に際しウエストバージ  
ニア州の生産拠点の増築が完了  
の乾燥地などさまざまな環境  
で、命に関わるものとなる。過  
酷な環境においても快適な環境  
に変えていくのはインベーショ  
ンの使命である。一方で、もの

ねている。さまざまな技術と組  
み合わせて、いろいろな進展も見  
込んでいる。この4年間の集大  
成として、春以降に発表できる  
ことも増えてくるだろう」

『記者の目』 2020  
年9月に発表した中期経営  
計画「再点火反転攻勢」  
は、「車と家をモノづくり  
でつなぐ」をテーマとし、  
自社の持つ技術を深化させ、他技術と組み合わせることで新たなモノづくりを具体化していく計画だ。そ

して、さらに現地大手の新規受  
注もあり、年次本格的な量産  
スタートに向け増産準備が進  
んでいる。日本から派遣したスタ  
ッフも加わって、日本のモノづ  
くりを現地でサポートしてい  
く」

「電気自動車や電動化に向け  
た取り組みは  
「オンボードチャージャー(O  
BC)の技術で、世界のトップ  
(自動車)メーカーとの協議が続  
いている。コンバータ技術の  
組み合わせで、なんとか商品化  
してきている」

## 点火コイル技術の深掘り進める

技術の進化とハイブリッド蓄電  
システムが人々の生活を快適に  
しながら環境負荷を低減できる  
近道だと考えている」

『記者の目』 2020  
年9月に発表した中期経営  
計画「再点火反転攻勢」  
は、「車と家をモノづくり  
でつなぐ」をテーマとし、  
自社の持つ技術を深化させ、他技術と組み合わせることで新たなモノづくりを具体化していく計画だ。そ

の1つである「多機能パワ  
コンシステム」を先日発表  
した。傘下のダイヤゼブラ  
電機と東京電力HDの共同  
開発で、EVや太陽光発  
電、蓄電池を最適にコント  
ロールする統合制御システ  
ムだ。自社の技術の深化  
と、他技術の組み合わせで  
具現化できたのだ。「リ  
イグナイト(再点火)」に  
よる未来に向けた技術発表  
も今後続くとしている。

(中野 文彰)